

大震災を忘れない ⑤

福島・南相馬から

自分の目で見て生の声を聞き、 身体で感じるのが真実だ

理事 児玉 幸久

それは何気なく送ったメールから始まりました。昨年ボランティアに参加したいわき市は、G・W中のボランティアの募集をしていないことがわかり、他の市町村を検索したところ、南相馬市のホームページに医療ボランティアの項目を見つけました。

第一原発からわずか二十キロ

調べてみると、南相馬はいわき市よりかなり厳しい放射能汚染の実態がわかっています。それでも何かできることがあればと思いついて、南相馬市に「富山市の歯科開業医です。何かお手伝いできることありますか？」とメールを送ってみました。するとその日の夕方、メールの受信欄に南相馬市立総合病院副院長・及川友好とあるのを見つけました。

富山県歯の協力で七〇人分の基本セットを確保

その後のメールのやり取りで、歯科の道具は一切なく、最大で七〇人ほど検診することにかなりそうなることがわかりました。到底個人の人持っている数では間に



及川医師作成のスライドより



及川医師作成のスライドより



及川副院長(右)と筆者。及川先生のメールには「当院には歯科がありません。入院患者の歯科検診をお願いできますか。」とありました。思いもよらないところからの返信に驚きましたが、気持ちはずくに固まりました。

合いません。ふと思いつき県歯に電話。事情を説明し七〇人分の基本セットの手配をお願いしたところ、快く協力していただけることになりました。義歯修理にも対応できる機材をそろえ、車に積み込み五月三日朝一時半出発しました。

南相馬市は福島第一原発より北にあり、非難区域と緊急時非難準備区域を合わせると市の半分以上が該当し、人口は七万一千人から四万二千人に減少。街を見回しても歩く人も少なく、子供の姿はほとんど見かけません。

南相馬市立総合病院は市の中心部にあり、七階建て二二〇床の大きな病院です。一階受付ホールに入ると目に付いたのは「ここは第一原発から二十キロです」の張り紙。ホワイトボードには、毎日の玄関前と一階ホール内の放射線量の測定値が書いてあります。私は、京都から来た六人の医療チームとともに受け入れられ、まずはこの一年間の南相馬市と病院の置かれた状況をスライドを見ながら及川先生から説明を受けました。

救急患者のほとんどを受療し、ぎりぎりの人数でがんばる病院職員

射線の施設内への侵入が確認されたため、玄関や窓をすべて閉め切っていたこと。民間業者からマスクにいい影響が出てくるほどの放射線の施設内への侵入が確認されたため、玄関や窓をすべて閉め切っていたこと。民間業者からマスクにいい影響が出てくるほどの放射線の施設内への侵入が確認されたため、玄関や窓をすべて閉め切っていたこと。

共済部だより

春の共済普及期間が終了しました!

5月25日に春の共済普及期間が終了しました。今年も多くの先生方から保険医年金・グループ生命保険へのお申し込みをいただき、ありがとうございました。

- 保険医年金<月払>…10月額1万円
51名 269口 (269万円)
- 保険医年金<一時払>…1050万円
42名 346口 (1億7300万円)
- グループ生命保険
10名 2億7600万円 (保険金額)

※今回お申し込みいただいた先生方には、掛金の引き落とし方法等について、後日ご案内をお送りいたします。

保険医年金は、毎年春と秋にお申し込みを受け付けています。次回の受付期間は、**9月1日~10月25日**です!

入院患者さんを検診して回った

さて私に与えられた仕事は歯科検診です。脳神経外科の患者さんが多く、対象者は車椅子が寝たきりがほとんどです。待つていてもしょうがないので医療用ワゴンをひとつ借り、三階から五階までを毎日ワンフロアずつ見て回りました。及川先生のご配慮で、各フロアではそのチームの方が忙しい中私に付きつきりひたりひとの患者の状態を説明し補助してくださり、こちらが診査した内容や指

病院五階から東を向けば津波により被災したところが見えます。一キロも離れていないでしょう。震災以前は防風・防砂の林で海岸線が見えなかったようですが、今では数本の木が残っているだけ。海岸線も瓦礫の山もはつきりと見えます。G・W中にもかかわらず、私がいた三日間とも及川先生は出勤され、ナースセンターでゆっくりしているス

我々は様々な方法で大量の情報を目にし耳にします。被災地に目を向け、現状を把握しているような気になっ

土台だけが続きます。所々で手向けられた花や線香が目に入ると、心が締め付けられる思いがこみあげ、海岸近くに詰められた瓦礫の山を見上げてみると、自然の力に脆くも崩れ去った文明の無力さを感じました。

南相馬の人々に覚悟のようなものを感じた

南相馬市立総合病院では、G・W中にもかかわらず、私がいた三日間とも及川先生は出勤され、ナースセンターでゆっくりしているス

富山県は「風下の人々」なのだから。(S・M)

編集後記

六月九日、北陸電力志賀原発が全電源を喪失。放射性物質を放出したとの想定で石川・富山の両県で防災訓練が行われた。

参加した住民は予約されたバスで単に離れた避難所へ移動した。しかしこれでは三・一一の教訓が生かされていない。当時、SPE EDIの情報を知らされなかったため、わざわざ放射性物質の流れる方向へと逃げた人々がいたのだ。

今後の訓練では、SPE EDIが放出源情報や気象情報をもとに予測した放射線分布に沿って、避難指示が出されなければならない。その拡散予測に応じた避難計画をいくつかのパターンに分け策定し、県民に周知することが必要だろう。